特産果樹情報　No.３

令和８年４月１０日発行
ＪＡグリーン長野営農販売部・経済部

【共通】

◆生育状況について

１．ＪＡ管内　あんず　新潟大実

	発芽	開花	満開	落花
平年		３／２７	４／　１	４／　９
令和８年	３／３０	３／２６	３／３０	４／　７
令和７年		３／２８	４／　７	４／１５

２．ＪＡ管内　プルーン　スタンレイ

	発芽	開花	満開	落花
平年	４／　７	４／１２	４／１６	４／２６
令和８年	３／２８			
令和７年	３／２９	４／１１	４／１５	４／２５

３．ＪＡ管内　日本なし　南水

	発芽	開花	満開	落花
平年	３／２７	４／１３	４／１７	４／２３
令和８年	３／３０			
令和７年	３／３０	４／１５	４／１９	４／２６

◆当面する重点作業について

１．人工受粉を励行、結実を安定させる。

◆交信攪乱剤（性フェロモン剤）設置について

１．設置方法は、果樹総合情報に記載されている、設置方法を参考に適正設置を行う。

２．プルーン・すもも生産者は、ナシヒメコンの第２期設置分を、梨の生産者は、コンフューザーNを設置時期まで密封したまま、冷暗所（５℃以下）に保管する。

【プルーン・すもも】

◆第３回薬剤散布について

１．散布時期：４月２３日（木）～４月２７日（月）　　実際散布月日　　月　　日

２．使用薬剤（混用順記載）※調合量１００ℓ当り・１０ａ当り散布量：４００ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展　　着　　剤	１０，０００倍	１０mℓ	－	－
㊞モスピラン顆粒水溶剤	２，０００倍	５０ｇ	前日	シンクイムシ類
（アプロードフロアブル）	１，０００倍	１００mℓ	１４日	カイガラムシ類
（アグレプト水和剤）	１，０００倍	１００ｇ	３０日	黒斑病

３．散布上の留意事項

１）モスピラン顆粒水溶剤は、ミツバチ等訪花昆虫に影響があるため、周囲や時間（ハチの飛びにくい早朝散布）に注意して散布する。

２）ウメシロカイガラムシ発生が多い場合は、アプロードフロアブル 1,000 倍（水 100ℓ 当り 100mℓ）を加用散布する。なお、手散布で枝・幹部にしっかりと薬液をかける。

３）すももで被害が多い、黒斑病の発生が心配される場合は、アグレプト水和剤 1,000 倍（水 100ℓ 当り 100ｇ）を加用散布する。

アグレプト水和剤に代えて、アグリマイシン１００の1,500倍（水100ℓ当り66ｇ）を使用しても良い。

4）降雨が多い場合は、ロブラール水和剤1,500倍（水100ℓ当り66ｇ）を加用散布する。

◆第４回薬剤散布について

１．散布時期：５月３日（日）～５月７日（木）　　実際散布月日　　月　　日

２．使用薬剤（混用順記載）※調合量１００ℓ当り・１０ａ当り散布量：４００ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展　　着　　剤	１０，０００倍	１０mℓ	－	－
㊞ダイアジノン水和剤３４	１，０００倍	１００ｇ	２１日	シンクイムシ類

３．散布上の留意事項

1）ダイアジノン水和剤に代えて、㊞オリオン水和剤1,000倍（水100ℓ当り100ｇ）を使用してもよい。

2）りんごの生理落果や、もも・ネクタリン葉薬害になるため、農薬飛散しないよう十分注意する。

3）黒斑病が心配される場合は、マイコシールド2,000倍（水100ℓ当り50ｇ）を加用散布する。

◆プルーン・すももの花肥施用について

１．施肥時期：４月中下旬

２．施用資材・施 用 量：有機専科１０ａ当り２袋（ノルチッソ１袋を施用しても良い。）

３．留意事項：樹齢及び着果状態を確認し施肥量を加減する。
樹勢の弱りやすいスタンレイなどは多めに施用する。
降雨に合わせるか施肥の前にかん水を行い吸収しやすい状態にする。

《あんず・うめ共通事項》

◆梅・杏の摘果について

１．凍霜害被害が心配される園では、実止まりが確認できるまで摘果作業を遅らせる。

２．杏は満開後１８日～２８日頃が適期。本年は４月中下旬頃が適当と思われる。

３．満開後２５日以降は果実が重なり、果梗も硬くなり摘果がしづらくなってくる。

４．梅の豊後については、生理落果終了後に行う。

◆梅・杏の花肥（追肥）施用について

１．施肥時期：４月中下旬

２．施用資材・施 用 量：有機専科１０ａ当り２袋（ノルチッソ１袋を施用しても良い。）
※樹齢及び着果状態を確認し施肥量を加減する。

◆枝枯れの処理について

１．花かすが落ちにくい場合、花腐れが発生しやすい。落花直後の薬剤散布徹底をする。

２．枝に花カスが残り樹脂が出ている症状の樹では、発見次第切り取り焼却するか埋める。
切り取った枝を園地に残すと、収穫果の灰星病の発生につながるので注意する。

【あんず】

◆摘果講習会開催について

下記により、講習会を開催致します。

開催日	曜	集合時間	集合場所	担当
４月２３日	月	午前　９：３０	松代　松代城跡西　萩原久光様園 場所が不明な方は、午前９時２０分までに 松代総合センターへ集合	伊藤
		午前１１：００	松代　東条　小野益一様園	伊藤
４月２４日	火	午後　３：３０	川中島　半田芳郎様園	松橋

◆第４回薬剤散布について

１．散布時期：４月２２日（水）～４月２６日（日）頃　　実際散布月日　　月　　日

２．使用薬剤（混用順記載）※調合量１００ℓ当り・１０ａ当り散布量：４００ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
ソ　ー　ゲ　ン	５００倍	２００ｇ	－	ほう素欠乏
㊞モスピラン顆粒水溶剤	４，０００倍	２５ｇ	前日	アブラムシ類
ミギワ２０フロアブル	２，０００倍	５０㎖	前日	黒星病・うどんこ病

３．散布上の留意事項

１）殺虫剤使用のため、訪花昆虫等引き上げ後、実施する。

２）黒星病防除は、この時期がもっとも重要です。

３）がく筒が残ると、灰星病やサビ果等の要因になるため、花カスを飛ばすようなつもりで散布する。

４）かいよう病の発生が見られた園は、マイコシールド1,500倍（水100ℓ当り66ｇ）を加用散布する。

５）ミギワ２０フロアブルに代えてストロビードライフロアブル2,000倍（水100ℓ当り50ｇ）を使用してもよい。

６）ソーゲン200ｇは、158 ㎖になる。

◆特別薬剤散布について

１．散布時期：第４回散布１０日後　　実際散布月日　　月　　日

２．使用薬剤（混用順記載）※調合量１００ℓ当り・１０ａ当り散布量：４００ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
ソ　ー　ゲ　ン	５００倍	２００ｇ	－	ほう素欠乏
ロブラール水和剤	１，５００倍	６６ｇ	３日	灰星病
㊞オリオン水和剤	１，０００倍	１００ｇ	７日	アブラムシ類・ケムシ類

３．散布上の留意事項

１）第４回・第５回薬剤散布の間隔が空く場合は、実施する。

２）うどんこ病の発生が心配される場合は、イオウフロアブル500倍（水100ℓ当り200㎖）を加用散布する。

３）オリオン水和剤に代えて、㊞スカウトフロアブル2,000倍（水100ℓ当り50㎖）を使用してもよい。

４）ソーゲン200ｇは、158 ㎖になる。

◆ほう素欠乏について言われる果面障害果

土壌中のほう素不足、養分バランスにより、吸収できない状態であると、発生が増加する。また、春先に降雨が少なく土壌乾燥していると発生は多くなる傾向にある。

◆うどんこ病について

落花期以降、高温乾燥が続くと発生しやすい。品種では、平和・新潟大実・信州大実に多い。

被害の多い場合は、着果量が確保できる場合は、摘果で被害果を落とす。不足している園は、被害の小さいものを残す。

果実への感染の様子

〔特徴〕

・果実及び葉などに白く「うどんの粉」をかけたような症状で、他の病気は降雨等により発病・感染するが、この病害は高温干ばつ時に発生が多くなる。
　※基本的に葉への感染がほとんど無い

・発生初期は白いカビが生えており、感染から時間が経過するとともに褐色から茶褐色に変化する。

【うめ】

◆第２回薬剤散布について

１．散布時期：４月１８日（土）～２５日（土）頃　　実際散布月日　　月　　日

２．使用薬剤（混用順記載）※調合量１００ℓ当り・１０ａ当り散布量：５００ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展　　着　　剤	１０，０００倍	１０mℓ	－	－
㊞モスピラン顆粒水溶剤	４，０００倍	２５ｇ	前日	アブラムシ類
オンリワーンフロアブル	２，０００倍	５０mℓ	前日	黒星病
マ イ コ シ ー ル ド	１，５００倍	６６ｇ	２１日	かいよう病

３．散布上の留意事項

１）マイコシールドは、収穫２１日前までのため、散布日に注意する。

２）黒星病の重要防除時期のため、特に丁寧に散布する。

３）ウメシロカイガラムシ発生が多い場合は、アプロードフロアブル 1,000 倍（水 100ℓ 当り 100mℓ）を加用散布する。

◆第３回薬剤散布について

１．散布時期：５月２日（土）～５月９日（土）頃　　実際散布月日　　月　　日

２．使用薬剤（混用順記載）※調合量１００ℓ当り・１０ａ当り散布量：５００ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展　　着　　剤	１０，０００倍	１０mℓ	－	－
イ オ ウ フ ロ ア ブ ル	５００倍	２００mℓ	－	黒星病
㊞バリアード顆粒水和剤	４，０００倍	２５ｇ	前日	アブラムシ類

【なし】

◆第３回薬剤散布について

１．散布時期：落花直後（花が８割位散った時が目安となる。）　　実際散布月日　　月　　日

２．使用薬剤（混用順記載）※調合量１００ℓ当り・１０ａ当り散布量：棚３００ℓ以上・立木３５０ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展　　着　　剤	１０，０００倍	１０mℓ	－	－
㊞カナメフロアブル	４，０００倍	２５mℓ	前日	黒星病・黒斑病・赤星病
アプロードフロアブル	１，０００倍	１００mℓ	３０日	クワコナカイガラムシ
トップジンＭ水和剤	１，０００倍	１００ｇ	前日	心腐れ症

３．散布上の留意事項

１）モスピラン顆粒水溶剤は訪花昆虫に影響があるので注意する。

２）西洋ナシはサビ果が発生しやすいので、乳剤・展着剤は使用しない。

３）カナメフロアブルに代え、トレノックスフロアブル500倍（水100ℓ当り200mℓ）を使用してもよい。

４）ハマキムシ類・ケムシ類の発生が多い場合は、バイオマックスＤＦ2,000倍（水100ℓ当り50ｇ）、又はエコマスターＢＴ1,000倍（水100ℓ当り100ｇ）を加用散布する。

◆梨花肥施用について

１．施肥時期：４月中下旬

２．施用資材・施 用 量：有機専科１０ａ当り２袋（ノルチッソ１袋を施用しても良い。）

３．留意事項：樹齢及び花芽やせん定の状況を確認し施肥量を加減する。
　　降雨に合わせるか施肥の前にかん水を行い吸収しやすい状態にする。

◆摘花実施について（西洋ナシ・日本なし共通）

１．摘蕾できなかったら摘花を実施する。

２．花そう葉のない花（無着葉花そう）、子持ち花の子花はすべて摘み取る。

３．主枝や側枝の先端部や２年枝の腋芽花はすべて摘み取る。

◆南水予備摘果実施について

１．南水は満開１４日後～２０日後までに１果そうに１果とする。

２．整形で果柄が長く、できるだけ大きな果実を残す。３、４番果を残す。

１）あら摘果の段階では、１番果が最も大きいので、２番目に大きい果実（１番果の隣に位置する果実）を残すとおおむね３、４番果になる。

２）摘蕾、摘花で後半の番花を整理してある場合、は果柄の長い果実を残すと３、４番果になる。

３）凍霜害の被害がある場合は５～６番果も使用して数量を確保する。

３．必ず短果枝に着果させる。

４．果台が横向き、または斜めの果台の果実を残す。

５．着果させない果そう

１）２年枝の果そう（えき芽果）⇒条溝果、低糖度果、小玉果

２）無着葉果そう⇒肥大不良

３）果台が上向きの果そう⇒軸折れ、枝ずれ、日焼け果。果台が下向きの果そう⇒肥大不良

◆南水栽培講習会の開催について

下記により、講習会を実施します。

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
４月２１日	火	午後　１：３０	更北　真島　西澤克敏様園 場所が不明な方は真島フルーツセンターへ 午後１時１５分までに集合	根津・外谷
		午後　３：３０	篠ノ井　東福寺　高橋正治様園	外谷

◆西洋ナシ適正摘果について

１．予備摘果

１）予備摘果の時期

①受精が確認される満開後１０～１５日頃から始め、満開後３０日以内に終了する。
早いほうが果実肥大によい。

②ラ・フランスが終わり次第、他の品種に取りかかる。

２）予備摘果の方法

①２～４番果で、果柄が太くて長いものを残す⇒忙しい場合は一番大きい果実を残す。

②サビ、キズ、変形果、病害虫被害果は摘果する。

３）摘果の位置

・ラ・フランスは短果枝主体にならせ、オーロラは長果枝（２０㎝位）にならせる。

【おうとう】

◆第３回薬剤散布について

１．散布時期：落花直後　　実際散布月日　　月　　日

２．使用薬剤（混用順記載）※調合量１００ℓ当り・１０ａ当り散布量：５００ℓ

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展　　着　　剤	１０，０００倍	１０㎖	－	－
ベルクートフロアブル	２，０００倍	５０㎖	７日	灰星病

◆第４回薬剤散布について

１．散布時期：前回散布１４日後　　実際散布月日　　月　　日

２．使用薬剤（混用順記載）※調合量１００ℓ当り・１０ａ当り散布量：５００ℓ

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
ベルクートフロアブル	２，０００倍	５０㎖	７日	灰星病
㊞ダイアジノン水和剤３４	１，０００倍	１００ｇ	１４日	ケムシ類・カイガラムシ類

３．散布上の留意事項

１）炭疽病の発生が心配される場合は、オーソサイド水和剤 800 倍（水 100ℓ 当り 125g）を特別散布する。
但し、果面の汚れには十分注意する。

２）カイガラムシ類の発生が多い場合は、アプロードフロアブル 1,000 倍を加用散布する。

◆摘果について

１．摘果の時期は、不受精果などの生理落果が終わる満開３～４週間後に実施する。
ただし、結実が良好で肥大不良が懸念される場合は、１週間程度早める。

２．１花束状短果枝当り２～３果程度残し、日当りの良い上枝では２果程度残す。